

ビースト 獣の日 (1995)

EL DIA DE LA BESTIA

メディア 映画

ジャンル ホラー コメディ

製作国 スペイン

色彩 Color

時間 105分

初公開日 1997/10/11

公開情報 東北新社

【解説】

「ハイル・ミュタンテ！／電撃XX作戦」で一躍SFホラー映画界にその名を知らしめたスペイン映画期待の新星アレックス・デ・ラ・イグレシアの長編第2弾は、“反キリスト”をテーマにした毒気たっぷりのコメディ・ホラー。

1995年12月24日。黙示録の研究に人生を費やしてきた司祭アンヘルは聖書を解読し、翌日マドリッドのどこかに生誕するはずの“反キリスト”抹殺を企てる。そのためには悪魔を降臨させる必要があると考え、自ら悪行を続けるアンヘルだったが、その中で悪魔を崇拝するヘビメタ・ショップの店主ホセ・マリアと出会う。意気投合した二人は、TVでオカルト・ショーのホストを務めるカヴァン博士なら悪魔を呼び覚ます方法を知っているはずだと、カヴァンの住むマンションに急行。カヴァン自身は実は悪魔など信じてもない人間だったが、アンヘルとホセ・マリアの脅迫によって形式的だけでも儀式をやるハメになってしまった。だが儀式が終わると、実際に悪魔の化身とおぼしき黒山羊が出現、3人は本当に悪魔が降臨した事を知る。やがてTVに出演したカヴァンはそこで“反キリスト”が生まれようとしている場所を示した悪魔の印を発見。別行動を取っていた二人と合流し、その現場へ向かうのだが……。

70年代半ばに量産されたオカルト映画を現代風にアレンジしつつ巧妙に翻案を加えるとうなるという好見本。主人公である司祭の行き当たりばったりの行動がはじめは笑いを誘うが、クライマックスに向かうにつれそれがシリアスなものであった事が判っていく構成などは、なかなか巧みだ。人知れず世界を救うために奮闘する奇妙な中年三人組というプロットに乗れる人なら十分に楽しめるだろう。“反キリスト”がどこで、どんな姿で現れるのか。そして世界は救われるのか……。冗談のような造りだが、物語のそういった根幹部分がしっかり練られているのも好感が持てる。

【クレジット】

| | | |
|----|---|---|
| 監督 | アレックス・デ・ラ・イグレシア | Alex de la Iglesia |
| 製作 | アンドレス・ビセンテ・ゴメス | Andres Vicente Gomez |
| 脚本 | アレックス・デ・ラ・イグレシア ホルヘ・ゲリカエチェバリア | Alex de la Iglesia Jorge Guerricaechevarria |
| 撮影 | フラビオ・マルティネス・ラビアーノ | Flavio Martinez Labiano |
| 音楽 | バティスタ・レーナ | Battista Lena |
| 出演 | アレックス・アングロ マリア・グラツィア・クチノッタ サンティアゴ・セグーラ エル・グラン・ワイオミング | Alex Angulo Maria Grazia Cucinotta Santiago Segura El Gran Wyoming |